

9

新病院建設に伴う検査室構築の検証

ー検査総合受付と生化学・免疫搬送ラインを中心にー

○小林 淳、廣川 亨、畑中 宗博
北見赤十字病院

【はじめに】新病院建設に併せて設計段階から検査室を構築する機会を得たので、過程および効果の検証結果について報告する。

【方針・目標】5 疾病 5 事業に関わる医療、特に救急医療、災害医療、がん医療および予防医療を重点事項に掲げ、院方針に柔軟かつ迅速に対応可能な検査室を構築することを基本方針として、下記 3 事項を重点目標とした。

1) 配置：各検査室集約および関連診療科との隣接配置により連携強化と効率化を推進する。

2) 検査受付：自動化による待ち時間短縮と各受付の統合による利便性向上と効率化を図る。

3) 検体検査：迅速性、効率性に優れ、試薬開発力および項目カバー率が高く、装置障害時含め 24 時間 365 日対応可能な装置構成とする。

【構築内容】1) 救急外来の真上、ICU および手術室の真下となる 2 階を検体検査室とし、検体搬送用昇降機を設置した。また、検査室を健康管理センターと耳鼻科外来に隣接させることで出向対応していた各検査を中央化するとともに、院内各検査室を集約化した。

2) 検査総合受付システム (Techno Medica) を採用、自動受付機 2 台にて自動受付とし、これまでの検体検査に加え、生理検査と健

診検査の受付・呼込み・認証を一括管理し、各検査受付を検査総合受付として統合した。

3) 生化学分析装置 LABOSPECT008 (日立ハイテクノロジー)、免疫分析装置 cobas8000 e602 (Roche Diagnostics K.K.)、LUMIPULSE Presto II (富士レビオ) 各 2 台を検体搬送システム IDS-880 (IDS) で繋ぐ装置構成とした。

【効果】1) 救急外来への出向回数減少と移動距離短縮による TAT 短縮と医療安全体制の向上。各出向検査の中央化による設備および検査装置の有効利用と人員の効率的配置。各検査室の集約化による部内協力体制の強化。

2) 待ち時間短縮と導線改善による患者および受診者の満足度向上。効率化による人員有効配置。患者認証システム化による安全性向上。

3) 各検査 TAT 短縮。装置障害時含む 24 時間 365 日対応。緊急項目カバー率向上。技師導線の改善と検査工程簡素化による業務効率化。

【まとめ】今回の検査室構築によって、救急および災害医療含む緊急対応の充実、検診事業貢献、患者満足度向上など多角的な効果が生まれた。また、医療情勢の変化に柔軟かつ迅速に対応可能な装置構成および部内協力体制が整備された。

連絡先 0157-24-3115